

### 3 階西病棟この1年を振り返って

3 階西病棟看護科長 工 藤 仁 美

産婦人科の世界では、鳥取県米子市で起きた新生児盗難というセンセーショナルな話題で、1年の幕があげました。私どもの病棟でもこの事件を受けて、新生児室のセキュリティの見直しから1年は始まりました。久保田院長の号令一過、授乳室の出入り口の不完全な管理が問題となり、現状に最も即応した形としてオートロックキーが採用され、6月に設置されました。この時に扉が常時閉じることによる室温調節の必要もあって、授乳室にはエアコンディショナーが取り付けられました。1年間にここを利用する460～70人のお母さんには、安心と快適な授乳時間が提供でき、大変なサービスの向上につながりました。

こうして始まった平成13年の3階西病棟動勢を追ってみると、分娩の総数は471件で平成12年の486件は下回るものの、大きく数の落ち込むことも無く、多くの方に当科を利用していただき大変感謝しております。出産者の内訳は初産・経産別では、初産婦229人・経産婦242人です。地域別にみると、名寄市が219人、ついで枝幸町の42人、隣接町村の、風連町・下川町・美深町をあわせて69人となり、残りはオホーツク沿岸町村を中心に77人が、後は道外を含め道内各地からの里帰りの方による出産が64人です。この分娩件数の中には予定・緊急を含めて56件の帝王切開による分娩が含まれ、全体の約12%となります。

その他の手術件数は163件で、1日入院の中絶手術を含めた子宮内膜搔爬が73件と一番多く、ついで子宮摘出・卵巣摘出が多く、子宮脱出で手術を受けられる方も多い年でした。

全体として分娩による入院をのぞいては、主に上半期は癌の化学療法の方でベッドがうまり、下半期は切迫流早産の長期療養妊婦で産婦人科のベッドは利用されました。

小児科の病床は1昨年同様に目の回るような回転のよさで、入院患者が入れ替わりました。総数で938人の子供たちが入院して、1か月以上の長期入院患者が何名かいるために、数字の上での平均入院日数はベビーも含めたところで5.39日となりますが、実際のところではだいたい3～4日の入院期間で、入れ替わっていきました。主な疾患は呼吸器系の炎症性疾患ついで胃腸炎などですが、時代を反映したような摂食障害のケースや、ネフローゼの反復入院など、学習しなければならない多くの症例がありました。また、冬のこえを聞くころから麻疹が大流行し、小児科だけでも54人の入院がありました。

小児科入院患者を地域別に見ると、名寄市603人約64%、風連町・下川町・美深町の隣接町村が173人約18%と、その他新生児の入院も含むため道北圏を中心に全道各地から162人約17%でした。

この出入りの激しい病棟とともに看護を展開するスタッフ26人も、転職者・大学進学者・また結婚による寿退職・院内移動など、患者の入退院に負けずめまぐるしく変わりました。

それでも3階西病棟のスタッフは、産婦人科3名・小児科4名の先生を中心に、未熟な新米婦長の私を助け、信岡主任と伴に、継続的に安全で質のよい看護を提供すべく、時には忙しさに負けそうになりながらも、1年間看護サービスを提供してきました。少なからずヒヤリとするようなミス・偶発的な事故もありましたが、何とか大事に至らず、みんなで協力・助け合いながら、切り抜けてくることができました。私には感謝という言葉以外にはありません。

平成14年はより深いものをめざして、仲間と努力していきたいとおもいます。